

令和7年度 実績報告書

浜松海の星幼稚園

1 全般状況

今年度も、今の社会の実情・保護者の方の要望・地域のニーズなどを考慮し、カトリック幼稚園としてどうあったらよいかを話し合いながら全事業を進めました。

2 浜松海の星幼稚園の概要

(1) 今年度の事業概要

・大きな事業はなし

(2) 設置する幼稚園の課程、定員、修業年限等

(ア) 入園定員等

年次別	保育年限	定員	利用定員	学級数	入園資格
満3歳児	4年	60名	15名	1	年度中に3歳の誕生日を迎える2歳児より受入
3歳児	3年		45名	2	満3歳～満4歳未満の幼児
4歳児	2年	70名	45名	2	満4歳～満5歳未満の幼児
5歳児	1年	70名	45名	2	満5歳～入学始期に達する幼児
計		200名	150名	7	

(イ) 園児数の状況

令和8年3月31日現在

学年	定員	利用定員	園児現員	備考
満3歳児	60名	15名	21名	2歳児より受入
3歳児		45名	34名	年度当初入園者33名
4歳児	70名	45名	38名	年度当初入園者40名
5歳児	70名	45名	28名	年度当初入園者29名
計	200名	150名	121名	

(ウ) 教職員の概要

令和8年3月31日現在

区 分	常勤	非常勤	計
園長	1		1
教諭・講師	7		7
講師(英語含む)		9	9
事務・職員		6	6
教職員計	8	15	23

3 事業の概要

(1) 保護者との関係において

- ・おうちえんを活用し、子どもたちの様子を保護者の方に知らせたりクラス携帯も活用し月に2回程、子どもの様子をお伝えしました。行事のねらいや園の思いや子どもの育ちを丁寧に伝え、行事の後に保護者アンケートも実施しました。このように教育の見える化を進める中、年度末の教育アンケートでも、保護者の方が園と同じ思いで子どもたちを見守ってくださっていると感じられる結果となりました。

(2) 地域への幼稚園開放の推進(つぼみっここひつじサークル 乳児等通園支援事業(誰でも通園制度))

- ・未就園児親子対象の幼稚園開放「つぼみっこ」については、浜松市の出生数が減少している中で、登録数も減っていますが、一度来ていただいた方のリピート率は高く、入園に繋がる要素も含んだ子育て支援の場であると思います。引き続きホームページやインスタでの発信など、今後も工夫していきたいと考えています。
- ・0歳から利用可能な「こひつじサークル」については、毎回、10組前後の利用者があり、幼稚園見学や満三歳児クラスの説明などの時間も設け、つぼみっこや満三歳児クラス入園に繋がるよう工夫をしました。
- ・今年度も、国が行う「乳児等通園支援事業(誰でも通園制度)」の実施をしました。(令和7年度に制度化、令和8年度より給付化され本格的実施)定期的に利用される方が増えています。今後も地域に開かれた場として、保護者の方の負担軽減にも繋がってくれるのではと思います。

(3) 様々な交流(小学校との連携 浜松聖星高校や地域の中学校との交流 自治会行事への参加)

- ・今年度も小学校との意見交換の機会を設けたり、広沢小学校校長先生にもごっこ遊びに参加していただいた。今後も幼小連携を大切に考えていきたいと思っています。
- ・今年度も、長期休業中の預かり保育中に、聖星高校の生徒さんの保育体験の受け入れや浜松市私立幼稚園協会の絵画展に聖星高校とコラボして制作した作品を提出しました。また、幼稚園夏まつりの生徒さんの手伝い、体育祭の園児の見学、高校のランタンイベントへの参加など様々な交流ができ、生徒さんにも園児にも良い体験となりました。今後も、教育の特徴の一つとして大切にしていきたいと考えています。
- ・今年度も自治会の行事に年長児が参加させていただき、運動会で行ったソーラン節を披露しました。今後も、自治会との繋がりも大事にしていきたいと思っています。

(4) 保育者としての資質向上

- ・チームワークを大切にし、協力し合い保育をするように心掛けました。また、日々の保育を振り返る時間を持ったり、研修報告会を行い情報の共有をしたりしました。
- ・シスターから職員向けに宗話をさせていただく中で、マリア祭やクリスマスなどの理解を深め、カトリック幼稚園の行事や日々の保育を通して、子どもたちの心の育ちを大切にしました。
- ・今年度もごっこ遊びの研究を深め、ごっこ遊び当日は保護者の方以外に高校、他園の先生に参加・参観した感想をいただき、保育者の資質向上に繋がりました。

(5)その他(5歳児健康診査を含む)

- ・今年度は、R9年度より全5歳児(年中組)対象に行われる5歳児健康診査のモデル園として子どもたちに関わる大人が理解を深め、子どもたちが安心して小学校入学を迎えられるよう市や他のモデル園と連携を取りながら進めてきました。また、毎月来ていただいている園の臨床心理士の桐生先生の力を借りながら保護者の方との連携を密にし、一人ひとりの子どもたちと丁寧に関わるように心掛けています。桐生先生には、希望する保護者に面談をしていただいたり、保育者の子どもを見る目を養うために、保育者に対して事例検討会や職員研修会を実施していただいています。